

一般社団法人

日本家族療法学会 第42回大宮大会

<大会プログラム>

家族のつながりに寄り添い
ともに紡ぐ新しい関係のかたち
— 家族療法の知と実践をここから —



開催日 2025 **9.5 (金)** ▶ **9.7 (日)**

会場 **ソニックシティ**

埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

大会テーマ

家族療法 温故知新－*Bridging basics and beyond*－

—ご挨拶—

日本家族療法学会第42回大宮大会の開催にあたって

“家族療法”は、歴史的には一對一の個人療法のみであった時代に、家族を同席させ対象に入れた治療法として始まったとされています。その名称ゆえ、家族を問題視するイメージが生じてしまうことから、“家族療法”という呼称を避ける傾向があったり、“家族と（共に）治療する”と表現されることもあります。一方で、数々の困難な状況に対し家族と共に治療・支援を展開してきたことから、臨床実践をする上で、個人療法にはない独自の有用な視点や技法を有しています。さまざまな要因を組み立て問題を全体的・立体的に把握するまなざし、家族・集団のまとまりや動きを捉える視点、人間関係やコミュニケーションを扱い変化させる方法、治療・問題解決のための創造的な介入技法etc。これらは一朝一夕に身に着くものではありませんが、他にはないその素晴らしい臨床的な視点と技術は、よりよい治療・援助を目指す人たちの憧れでもありました。しかし、時間的な変化と共に、これらの基礎且つ土台となる視点や技術が曖昧になっているようにも思われます。

そこで第42回大会のテーマは「家族療法 温故知新－*Bridging basics and beyond*－」としました。“家族療法”そのものをとりあげ、古くからある重要な基礎的なものたち（basics）を知り、新たにその先へ（beyond）と橋渡しする、といった意味です。そのために、家族療法の実践・普及にご尽力されてこられた先生方に「遺しておきたいこと・今語りたいこと」を挙げていただき、シンポジウムや講演などの大会企画としました。加えて、若手・中堅による家族療法のポイントやトピックを扱ったミニWSも開催します。大会WSでは、家族療法の実践的な内容とともに、一般にも関心の高いテーマや質的研究法の講座が揃い、充実したプログラムになったと自負しております。

家族療法の素晴らしい視点や技術を、参加された人たちの臨床実践や学びに活かす、そんな大会になればと考えています。奮ってのご参加お待ちしております。

一般社団法人 日本家族療法学会第42回大宮大会

大会長 中野真也

目次

大会参加者へのご案内	3
発表者・登壇者の方々へのご案内	5
会場までのアクセス	6
各フロアのご案内	7
大会1日目：9月5日（金）タイムテーブル	9
大会2日目：9月6日（土）タイムテーブル	10
ワークショップ：9月7日（日）タイムテーブル	11
講演・大会企画シンポジウム・座談セッション	12
ミニ・ワークショップ	15
一般演題	16
事例検討	19
スーパーヴィジョン・セッション	20
自主シンポジウム	20
ワークショップ	23

※大会ホームページでもプログラム集をダウンロード・閲覧できますのでご参照ください。

大会参加者へのご案内

1. 受付

次の通り受付を行います。

日程	時間	場所
9月5日(金)	9:00~18:00	ソニックシティホール2F
9月6日(土)	9:00~17:00	ソニックシティホール2F
9月7日(日)	9:20~13:30	各WS会場※

※ ワークショップを申込み済みの方は、各WS会場で受付を行います。当日、ワークショップのみを申し込む方は、ソニックシティビル4Fの第2集会室前へお越しください。

2. 参加費

	学術大会参加費（5，6日）		ワークショップ（7日）	
	事前参加登録	当日参加登録	事前参加登録	当日参加登録
a. 会員	9,000円	11,000円	8,000円	10,000円
b. 非会員	10,000円	12,000円	9,000円	11,000円
c. 学生	5,000円	7,000円	5,000円	7,000円

※ 当日の参加登録の場合は、受付にて現金でお支払いください。

3. 誓約書

受付前にて、誓約書（守秘義務や個人情報の保護、録画録音撮影をしない等を誓約するもの）をご記入いただき、所定のボックスに提出をお願いいたします。

4. クローク

次の通り、クロークをご利用いただけます。引き取りは時間厳守でお願いいたします。
交流会に参加の方のクロークは交流会会場に用意しております。
貴重品や壊れやすいものはお預かりできません。

日程	時間	場所
9月5日（金）	9:20~18:30	ソニックシティホール2F
9月6日（土）	9:15~18:30	ソニックシティホール2F
9月7日（日）	9:30~16:30	ソニックシティビル4F 第2集会室

5. 交流会

日時：9月5日(金)18:30~20:30

会場：ソニックシティホール4F 国際会議室

※当日参加受付は、事前参加受付で空席があった場合にのみ当日、会場の受付にてお申込みいただけます。満席の場合もございますのでご了承の程お願いいたします。

6. 会務報告会

日時：9月6日(土) 12:15~13:15

会場：ソニックシティビル6F 604会議室

※理事らが会務を報告する会です。会員の方のみ出席いただけます。

7. 書籍展示・販売と抄録号について

書籍の展示・販売コーナーを次の通り設けています。お気軽にお立ち寄りください。

9月5日(金)~7日(日)	ソニックシティビル4F 第2集会室
---------------	-------------------

※本大会の「抄録号」は会員は大会前に発送しております。

非会員は金剛出版の販売コーナーにてご購入ください。

8. 昼食・休憩

昼食は、各会場とっていただいております。大宮駅周辺には多数飲食店があり、ソニックシティビル1F・2Fにも、飲食店がございます。コンビニも2Fにあります。

書籍展示・販売を兼ねたソニックシティビル4Fの第2集会室は、休憩室としてもご利用いただけます。第2集会室は、研修会などの案内チラシを置くスペースもございます。お気軽にご利用ください。

※研修会案内などを置かれる場合には、会場にあります大会スタッフへその旨お知らせください。

9. Wi-Fi

ソニックシティには無料のWi-fiがございません。各自でご対応ください。

10. 臨床心理士の資格更新ポイント取得

学術大会、ワークショップ(1日)に参加することで、臨床心理士の資格更新のための研修ポイントをそれぞれ2ポイント取得できます。

11. 学会の単位取得

学術大会に参加することで、日本精神神経学会の精神科専門医の更新単位(3単位)が取得できます。日本プライマリ・ケア連合学会の専門医・認定医更新のための単位(5単位)、プライマリ・ケア認定薬剤師の認定単位(9単位)が取得できます。手続きのために総合案内にお越しください。

12. 領収書

事前参加登録の場合には、すでにご案内しているようにクレジットカード決済完了後に、1回のみ領収書を発行しています。銀行振込の場合には、参加費の振込確認後に、事務局より発行となります。

当日申込の場合には、受付にてその旨お知らせください。領収書を発行いたします。

発表者・登壇者の方々へのご案内

①発表スライド資料の動作確認

パワーポイントなどのスライド資料は、USBなどでご持参いただき、当日会場に設置してあるパソコンを用いて使用してください。使用するパソコンはWindows11で、MicrosoftOfficeのパワーポイントを基本としています。USBはType-Aのものをご準備ください。また、ソニックシティホール2Fの小ホール前の受付スペースに、動作確認用のパソコンを用意してあります。事前に動作確認をお願いいたします。

②配布資料

資料を配布する場合には、ご自身で必要部数を用意し、当日会場スタッフにお渡しください。また資料には、発表日・発表形式・発表タイトル・発表氏名をご記入ください。なお、大会スタッフは資料のコピーや破棄には対応しかねますので、予めご了承ください。

③一般演題の発表者、および座長へのご案内

発表20分、質疑応答10分を目安とします。以下の要領でベルを鳴らしますので、発表時間を厳守してください。（1 鈴：発表終了3分前、2 鈴：発表終了、3 鈴：質疑応答終了）発表取り消しがあっても、発表時間の繰り上げは行いません。

【座長との打ち合わせ】

座長は、進行と助言者を兼ねています。座長と発表者で打ち合わせを行う場合は、ソニックシティビル4F第2集会室をご利用ください。

【発表欠席と代理発表】

各演題の筆頭記載者が発表者です。発表者が欠席した場合には、発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て共同発表者は代理発表をすることができます。代理発表を希望する場合には、会期前は大会事務局（omiya2025@jaft.org）までメールにてご連絡をお願いします。当日の場合は、総合受付（ソニックシティホール2F）にお申し出ください。

④事例検討の発表者、および座長へのご案内

時間は60分です。進行や方法は、発表者・座長に一任します。時間厳守をお願いいたします。（1 鈴：終了3分前、2 鈴：終了時）

⑤スーパーヴィジョンの発表者、およびスーパーヴァイザーへのご案内

時間は90分です。進行や方法はスーパーヴァイザーに一任します。時間厳守をお願いいたします。（1 鈴：終了3分前、2 鈴：終了時）

⑥自主シンポジウムの企画者へのご案内

時間は120分です。内容の構成などは企画者に一任します。時間厳守をお願いいたします。会場設営、および片づけは、各企画者・登壇者で行ってください。ただし、マイク・パソコン・プロジェクター・スクリーン・ホワイトボードおよびマーカーは会場のものをご使用いただけます。

⑦COIに関する提示

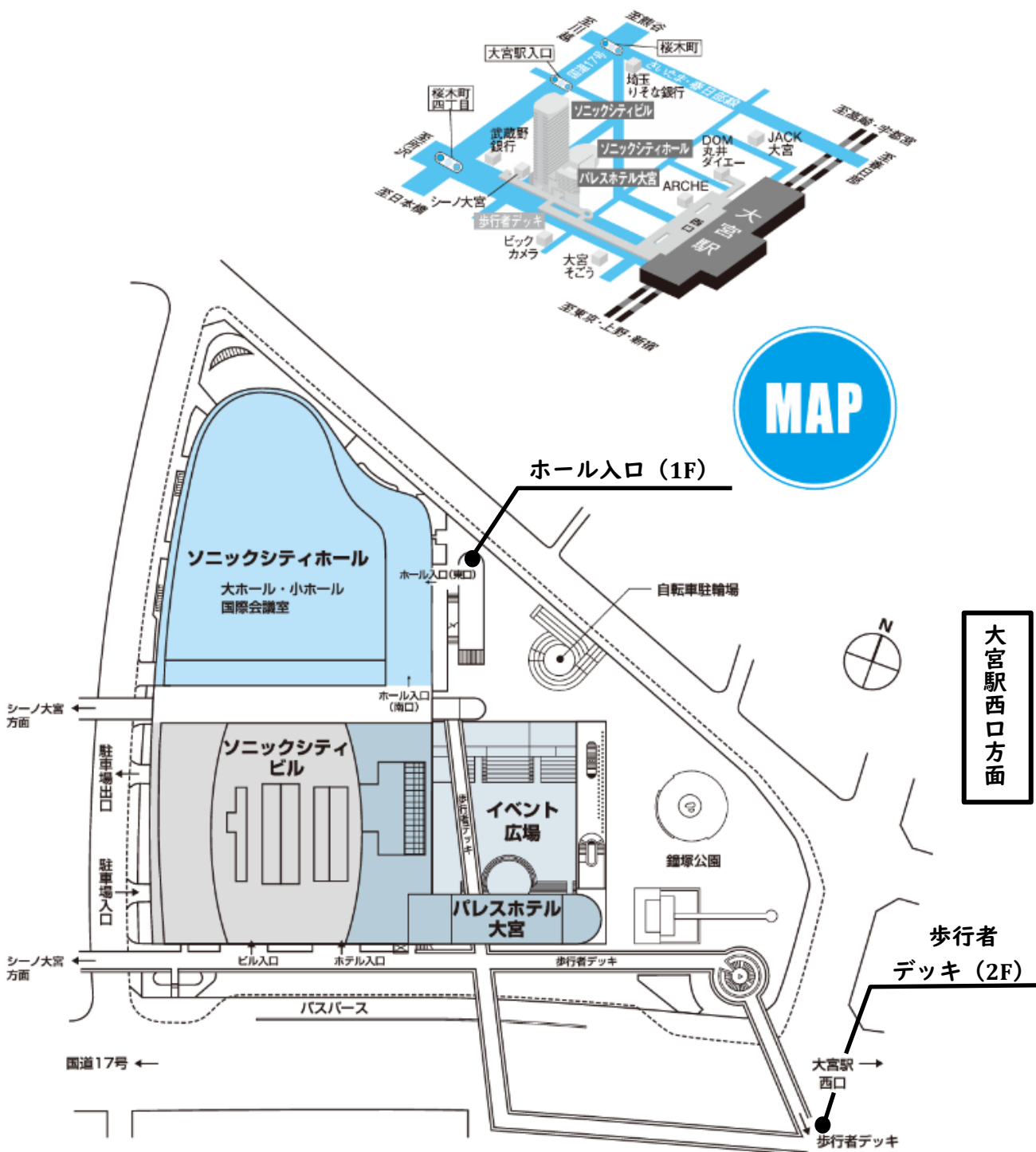
すべてのセッションの発表時に開示が必要になります。発表者、代表企画者、すべての共演者の利益相反状態について、発表スライドの1枚目または2枚目（タイトルスライドの前または後）に規定のCOIスライドのいずれか該当する方を開示してください（大会ホームページを参照してください）。なお、発表時に口頭での説明をする必要はありません。

会場までのアクセス

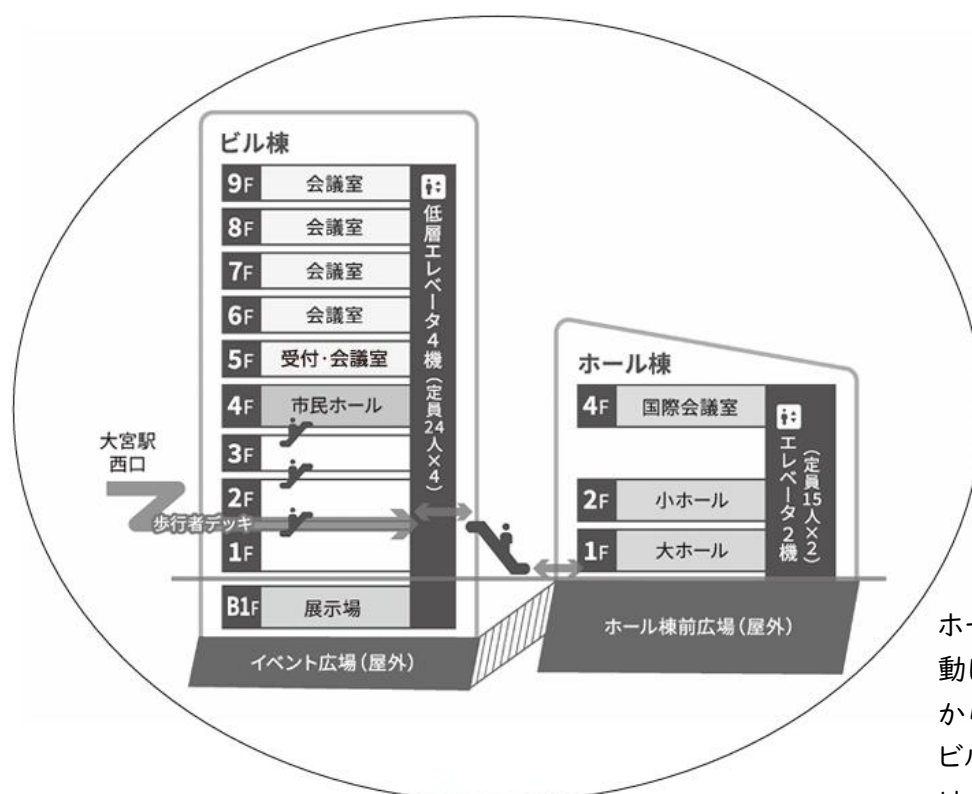
会 場：ソニックシティ 〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

■ JR大宮駅西口 歩行者デッキにて直結 徒歩3分

大宮駅の西口を出て正面、真っ直ぐのところにはソニックシティがあります。歩行者デッキ（2F）からARCHEに向かい右側を回って階段で1Fへ降りて、真っすぐ進む道（ホール棟にはこちらが便利です）と、歩行者デッキの左側からデパートのそごうの脇を通り、ソニックシティビルに入る道（ソニックシティビルにはこちらが便利です）の2通りの行き方があります。小ホールへは1Fの入口へお越しください。



各会場のご案内



ビル棟・ホール棟 断面図

ホール棟からビル棟への移動は、エスカレーターで1Fから2Fへ上がってください。ビル棟からホールへの移動は、2Fでエスカレーターを降りてください。

4F市民ホールは、ビル棟2Fからエスカレーターもしくは低層エレベーターでの移動となります。

601～604会議室への移動は、低層エレベーターからとなります。4Fから6Fの移動は階段もご利用いただけます。

ソニックシティホール2F	
小ホール前スペース	総合受付：参加受付、誓約書記入・提出、発表資料動作確認など
小ホール（メイン会場）	大会長講演、学会長講演、座談セッション、大会企画シンポジウム、大会企画講演
ソニックシティビル（4F・6F）	
4F市民ホール第3・4集会室（サブ会場）	大会企画講演、ミニワークショップ
4F市民ホール第1集会室	ミニワークショップ、自主シンポジウム
4F市民ホール第2集会室	書籍展示・販売、休憩スペース ※WSの7日は、総合受付・クロークも設置。
6F601会議室	自主シンポジウム、一般演題
6F602会議室	自主シンポジウム、一般演題
6F603会議室	一般演題、事例検討
6F604会議室	一般演題、事例検討、スーパーヴィジョンセッション ※会務報告会

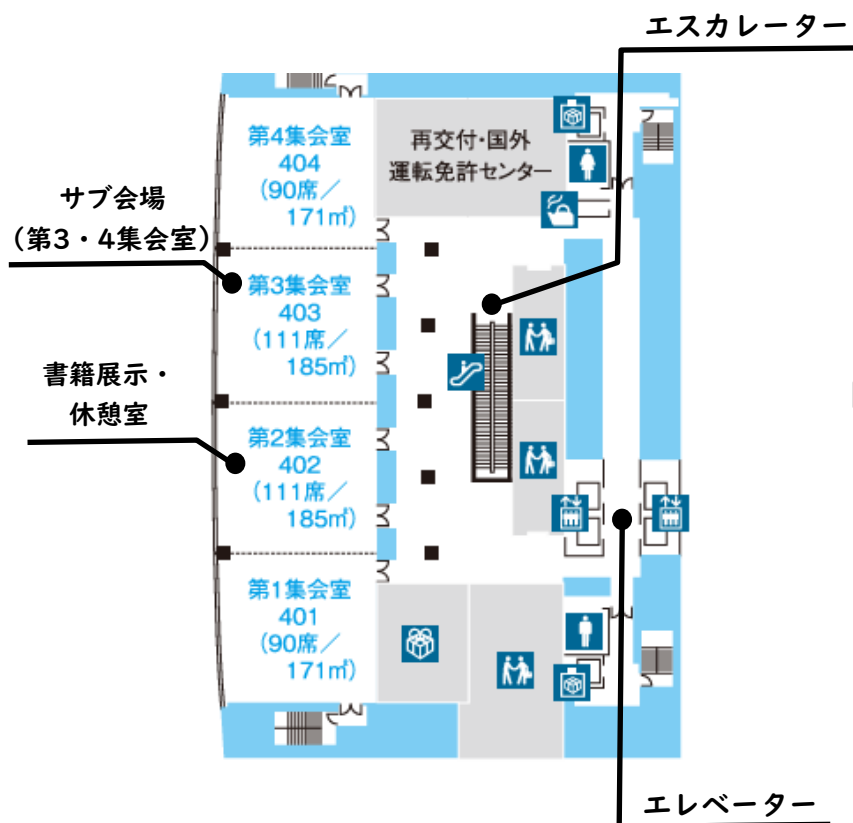
※ワークショップは、ソニックシティビル4Fの市民ホール第1、3、4集会室、6Fの601、602、603、604会議室の7会場となります。

ソニックシティビル会場図

4^F

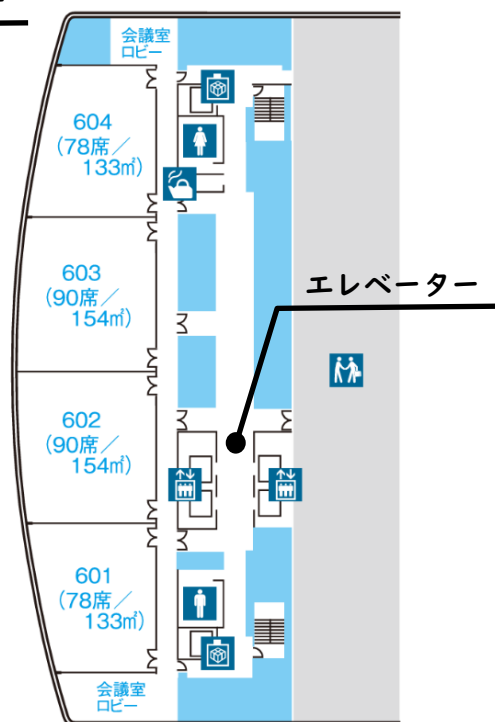
ソニックシティビル

■ 市民ホール401～404



6^F

会議室平面図



※ソニックシティビルの講師控室は501会議室となります。

大会1日目：9月5日（金曜日）タイムテーブル

メイン会場(小ホール：450名)		サブ会場(4F、第3・4集会室：201名)		第1集会室(4F：90名)		第2集会室(4F：111名)		601会議室(6F：78名)		602会議室(6F：90名)		603会議室(6F：90名)		604会議室(6F：78名)	
受付開始：9：00															
開会式 09:55- 大会長講演 10:00-10:50 家族療法—温故知新 大会長 (中野真也) 司会 (岩田尚大)															
会長講演 11:00-12:00 日本家族療法学会に 期待すること 会長 (村上雅彦) 司会 (中野真也)															
座談セッション 13:30-15:00 家族療法の専門性と 家族療法家の責任性 登壇者 (東豊・村上雅彦) 司会 (岩田尚大)		講演 13:30-15:00 家族療法から学んだこと —家族システム理論、 一般システム理論、DBT、 トラウマインフォームドアプローチ、 サンクチュアリモデルなどにおける システムの広がりと深まり 講師 (道佐安一郎) コメンテーター／リフレクター (梁田秀磨・福井里江・田中究)		ミニワークショップ 13:00-15:00 ジェノグラム入門—その情報の 豊かさに触れてみましょう 講師 (荻垣将)		書籍展示・休憩所 11：00 - 18：15		自主シンポジウム 13:00-15:00 公立中学校と児童精神科医師 との15年間の協働関係 (小笹祥子・清田晃生・ 川窪公夫・神谷俊介・ 谷田征子・高橋候輔・ 布施裕美子)		自主シンポジウム 13:00～15:00 スーパーヴィジョンのあり方・話し 方を考える—あるスーパーヴィジ ョン・グループの模索のプロセス (平栗富美子・小池武・ 長谷川曉子・増井紀子・ 横山勝・川口友美子・ 相澤秀一・児島達美)		一般演題 13:30-15:00 認知科学の視点で考える PTMF、インフォームドコンセント、 危害防止原理 (石橋健一) 親の別居・離婚を経験した 子どものリスク・スクリーニング — Kids' DOORSの試行実践 (小田切紀子) リフレクティング・チームの 手法を導入した事例検討の意 義とその可能性に関する検討 — 事例提供者と参加者の質的 分析から (須江泰子) 座長：市橋香代		事例検討 13:00-14:00 回復期リハビリテーション病院 リエゾンにおける退院支援の一例 (森末緒・堀込俊郎) 座長：渡辺俊之	
												事例検討 14:10-15:10 読み書きの困難を持つ児童に、 チーム学校が成し得たことは何か (迎美保・佐藤牧子) 座長：赤津玲子			
大会シンポジウム 15:30-18:00 精神分析と家族療法 シンポジスト (中村伸一・渡辺俊之・ 上別府圭子) 司会 (中野真也) 指定討論 (児島達美)		講演 15:30-17:30 家族療法における 基礎としての複数面接 講師 (吉川悟) 司会 (大平厚)		ミニワークショップ 15:30-17:30 思春期・青年期家族への アタッチメント理論に基づく支援 講師 (稲垣綾子)				一般演題 15:30～17:00 家庭と学校の協働的関係の 再構築についての一考察 (山元彩美・吉川悟) 家庭内の複数の子どもが問題を 抱える中で機能的な援助システ ムの形成を志向した一事例 (相楽麻紀・大平厚) スクールカウンセラーによる教員へ の働きかけに関する一考察 システム論の視点から (久保見篤) 座長：阪幸江		自主シンポジウム 15:30-17:30 精神科診断名を共有することに どれだけの意味があるのか —トラウマインフォームドケア・ PTMF・オープンダイアログ・ 心理教育などの視点からの問い (伊藤順一郎・後藤雅博・ 福井里江・道佐安一郎)		一般演題 15:30-17:00 希死念慮を抱く生徒の 親子関係調整を行った一事例 (西山達二) 回復期の思春期神経性やせ症 への介入 (村松京香・吉川悟) 他機関での専門的な支援・ 治療への拒否が改善した事例 —患者の抱える困り感の扱いの 有効性 (寺田日向子・吉川悟) 座長：阿部幸弘		スーパーヴィジョン・セッション 15:30-17:00 すれちがう母と子への 個別アプローチ (高橋候輔) 座長：スーパヴィザー：田中究	
														事例検討 17:10-18:10 本人が来談困難な状況の発達 相談における家族支援事例 (志田望) 座長：鈴木美砂子	
交流会：国際会議室 18:30-															

大会2日目：9月6日（土曜日）タイムテーブル

メイン会場(小ホール：450名)		サブ会場(4F、第3・4集会室：201名)		第1集会室(4F：90名)		第2集会室(4F：111名)		601会議室(6F：78名)		602会議室(6F：90名)		603会議室(6F：90名)		604会議室(6F：78名)	
受付開始：9：00															
大会シンポジウム 10:10-12:10 さまざまな領域における 家族療法の活用 シンポジスト (福山和女・生島造・ 後藤雅博) 司会 (市橋香代) ミニワークショップ 10:10-12:10 複数面接の基本 ―関係をみる、関係と関わる 講師 (大平厚) 自主シンポジウム 10:10-12:10 ラップアラウンドをといた 現場の対応と気づき― 家族支援と当事者主体 (久保樹里・菅野道英・ 北谷多樹子・三木馨・吉村拓 美・)				書籍展示・休憩所 9：00 - 18：00				自主シンポジウム 10:10-12:10 TAT(主題統覚テスト)を 家族アセスメントに使う (渡部千世子・後藤千恵・ 中井洋子・大矢愛里・村瀬早 苗・)		一般演題 9:00-10:30 夫婦のコミュニケーションへの 介入手段としての知能検査 (竹下柊・吉川悟) カプルの治療的アセスメントで 夫婦の相互作用を理解する (小倉菜穂子・中村紀子) 不妊治療により葛藤的になった 夫婦にカプルセラピーを実施し た―事例―不妊治療領域にお ける家族療法の有用性について (石田真央) 座長：北島歩美		一般演題 9:00-10:30 応用行动分析の枠組みを母と 共有したことで、母子関係が変 化し子どもの粗暴行為が なくなった事例 (藤枝周平・宋大光) 知的障害の成人男性への リフレームと治療システムの活用 で母子の相互作用が変化した 事例 (服部智花・宋大光) 面接構造の変更に関する 一考察―母子合同面接を 導入して改善した 不登校生徒の事例から (赤津玲子) 座長：森野百合子		一般演題 9:00-10:00 「昨日の夜ご飯はなんですか？」 と支援者に問い続ける 難病患者への支援 (水野愛梨・吉川悟) 心配事を訴え続ける母親との 面接過程 (高橋諒一・吉川悟) 座長：岡本吉生	
										一般演題 10:40-12:10 不登校経験者のレジリエンス ―大学へ進学できた人の 自分史と面接からの分析 (杉原俊二) 家族のヒストリーを来談者と 共有することの効用 ―発達障害を治したいと訴える 女性の事例 (田上貢・吉川悟) 実家との関係に悩む40代女性 との面接過程―コミュニケーション の連鎖に着目して (今峰大樹・松原明弘・ 吉川悟) 座長：上別府圭子		一般演題 10:40-12:10 学校システムによる 母子の不安への支援により 多動傾向が改善した事例 (近藤弘果) 「外在化が難しい」クライアントと のナラティブ・セラピー ―“外在化する会話”の展開に 関する一考察 (木場律志) 断業がある状況における家族同 席面接の場面設定とリフレクティ ングの活用―ストレングスから 考える支援のあり方 (田中良人・阿部幸弘) 座長：植村太郎		事例検討 10:10-11:10 痛みと家族の悩みを抱え 来談した事例 (岩田尚大・村上雅彦) 座長：児島達美	
										会務報告会 12:15-13:15					
										講演 14:00-15:00 マイケル・ホワイトの詩学 隠喩と換喩 講師 (小森康永) 司会 (坂本真佐哉)		ミニワークショップ 13:30-15:30 必要性から考える 「ジョイニング」入門 講師 (田中智之)		自主シンポジウム 13:30-15:30 メディカルファミリーセラピー 実践入門―医療者と家族療法 家をつなぐ支援とは (宮本侑達・若林英樹・山田宇 以・佐藤律子・鈴木美沙子・ 永嶋有希子)	
講演 15:45-17:15 「患者カルテ」の理論と実践 ―ナラティブ、コラボレィティブ、 オープンダイアローグの展開 講師 (野村直樹) 司会 (浅野久木)		ミニワークショップ 15:45-17:45 ヤングケアラーへの支援を考える ―精神疾患のある親と暮らす 子どもを中心に 講師 (長沼葉月)		自主シンポジウム 15:45-17:45 クリニックにおける 受付スタッフの重要性 ―医療機関全体の治療力 向上を目指して 講師 (宋大光・橋本穂乃香・清水良 輔・清水貴子・田中究)		自主シンポジウム 15:45-17:45 グループスーパーヴァージョン における均一性と多様性 ―内省的効果と協働的効果 (渡辺俊之・石田匡宏・神谷俊 介・星野俊弥・菅野陽子・ 筒井奈佳子・清水秀美・ 四十物貴子・西島美保)		自主シンポジウム 15:45-17:45 学校職員それぞれの本音を ぶつけ合おう ―ずれの明確化から 組織連携を考える (宮戸和哉・神田祐男・ 宮本茜・川井利枝・ 中井美穂・松原英司・ 宮島大輔・七五三野眺美・ 田村毅)		事例検討 15:15-16:15 家族面接における対話を促す 非言語的関わり― 治療者の姿勢と呼吸の 調整を通して (尾形広行) 座長：吉川悟		スーパーヴァージョン・セッション 15:45-17:15 発達障害の家族への関わり ―家族システムと 病院システムの間で (源遼優江)			
								事例検討 16:30-17:30 相互作用の変化に向けて Here and Nowでの応対を 行った一事例 (大平厚・吉川悟) 座長：村上雅彦		スーパーヴァイザー：中村伸一					
閉会式 17:50-18:15															

ワークショップ：9月7日（日曜日）タイムテーブル

601会議室(6F：78名)	第1集会室(4F：90名)	第4集会室（4F：90名）	602会議室(6F：90名)	第3集会室（4F：111名）	604会議室(6F：78名)	603会議室(6F：90名)
受付開始：9：30						
WS 1 10：00～16：00 子ども・若者に身近な依存症と、 その家族へのアプローチ 薬物依存症の ACE当事者の立場から 講師 (風間暁)	WS 2 10：00～16：00 質的研究入門 —理論的背景と データ分析の基礎 講師 (能智正博)	WS 3 10：00～16：00 RC—認証と可能性の探究から 実践を振り返る ナラティヴ・スーパービジョン 講師 (国重浩一)	WS 4 10：00～16：00 家族療法入門 —実践を始める上で大事なこと 講師 (村上雅彦・岩田尚大)	WS 5 10：00～16：00 ロールプレイングによる 家族・夫婦同席面接の演習 講師 (中村伸一・北島歩美・ 岩井昌也・宮崎愛)	WS 6 10：00～16：00 トラウマインフォームドな 家族支援に向けて 講師 (遊佐安一郎・西田泰子・ 中垣貞通・唐津尚子)	WS 7 10：00～16：00 家族・関係者からの支援を 主眼とした発達障がい 当事者への支援 —システムズアプローチの 視点からの対応 講師 (吉川悟・志田望)

講演

大会長講演

「家族療法－温故知新」

日時：9月5日(金) 10:00－10:50

小ホール

【講師】中野真也（国際医療福祉大学/心理技術研究会）

【司会】岩田尚大（広島大学病院）

会長講演

日本家族療法学会に期待すること

日時：9月5日(金) 11:00－12:00

小ホール

【講師】村上雅彦（広島ファミリールーム）

【司会】中野真也（国際医療福祉大学/心理技術研究会）



■ 大会企画講演 4

家族療法から学んだこと—家族システム理論、一般システム理論、DBT、 トラウマインフォームドアプローチ、サンクチュアリモデルなどにおける システムの広がりと深まり

日時：9月5日（金）13：30－15：00

第3・4集会室（4F）

【講師】遊佐安一郎（長谷川メンタルヘルス研究所）

【コメンテーター／リフレクター】梁田秀麿（東北福祉大せんだんホスピタル）

福井里江（東京学芸大学） 田中究（関内カウンセリングオフィス）

■ 大会企画講演 3

家族療法における基礎としての複数面接

日時：9月5日（金）15：30－17：30

第3・4集会室（4F）

【講師】吉川悟（龍谷大学心理学部）

【司会】大平厚（カウンセリングルームIRIS）

■ 大会企画講演 1

マイケル・ホワイトの詩学 隠喩と換喩

日時：9月6日（土）14：00－15：00

小ホール

【講師】小森康永（愛知県がんセンター精神腫瘍科部）

【司会】坂本真佐哉（神戸松陰大学）

■ 大会企画講演 2

「患者カルテ」の理論と実践

— ナラティヴ、コラボレイティヴ、オープンダイアログの展開

日時：9月6日（土）15：45－17：15

小ホール

【講師】野村直樹（名古屋市立大学大学院人間文化研究科）

【司会】浅野久木（医療法人成精会刈谷病院）

大会企画 シンポジウム

■ 大会企画シンポジウム①

「精神分析と家族療法」

【シンポジスト】中村伸一（中村心理療法研究所室）

渡辺俊之（渡辺医院/高崎西口精神療法研修室）

上別府圭子（国際医療福祉大学大学院）

【司会】中野真也（国際医療福祉大学/心理技術研究会）

【指定討論】児島達美（KPCL）

日時：9月5日（金）15：30－18：00

小ホール

■ 大会企画シンポジウム②

「さまざまな領域における家族療法の活用」

【シンポジスト】福山和女（ルーテル学院大学）

生島浩（福島大学）

後藤雅博（こころのクリニック ウィズ）

【司会】市橋香代（東京大学医学部附属病院）

日時：9月6日（土）10：10－12：10

小ホール

大会企画 座談セッション

「家族療法の専門性と家族療法家の責任性」

【登壇者】東豊（龍谷大学）・村上雅彦（広島ファミリールーム）

【司会】岩田尚大（広島大学病院）

日時：9月5日（金）13：30－15：00

小ホール

9月5日(金)6日(土) ミニ・ワークショップ

3. ジェノグラム入門—その情報の豊かさに触れてみましょう

【講師】 藪垣将（藪垣心理療法研究室）

日時：9月5日（金）13：00－15：00

第1集会室（4F）

4. 思春期・青年期家族へのアタッチメント理論に基づく支援

【講師】 稲垣綾子（日本女子大学）

日時：9月5日（金）15：30－17：30

第1集会室（4F）

1. 複数面接の基本—関係をみる、関係と関わる

【講師】 大平厚（カウンセリングルームIRIS）

日時：9月6日（土）10：10－12：10

第3・4集会室（4F）

2. 必要性から考える「ジョイニング」入門

【講師】 田中智之（神戸医療未来大学）

日時：9月6日（土）13：30－15：30

第3・4集会室（4F）

5. ヤングケアラーへの支援を考える

— 精神疾患のある親と暮らす子どもを中心に

【講師】 長沼葉月（東京都立大学人文社会学部）

日時：9月6日（土）15：45－17：15

第3・4集会室（4F）

※次ページからは、一般演題を（P-07）、事例検討を（K-05）、スーパーヴィジョン・セッションを（S-01）、自主シンポジウムを（V-06）などと記号＋数字で表示してあります。これは大会抄録集（家族療法研究第42巻第2号）の掲載順に対応したものであり、例えば（P-07）は、抄録集の「一般演題7」になります。同様に、（V-06）は自主シンポジウム6です。

9月5日(金) 一般演題

■ 一般演題①

9月5日(金) 13:30-15:00

603会議室

<座長>市橋香代(東京大学医学部附属病院)

(P-01) 認知科学の視点で考えるPTMF、インフォームドコンセント、危害防止原理

石橋健一(社会福祉法人府中みくまり病院)

(P-07) 親の別居・離婚を経験した子どものリスク・スクリーニング— Kids' DOORSの試行実践

小田切紀子(東京国際大学)

(P-21) リフレクティング・チームの手法を導入した事例検討の意義とその可能性に関する検討—事例提供者と参加者の質的分析から

須江泰子(日本社会事業大学専門職大学院／筑波大学大学院人間総合科学学術院ヒューマン・ケア科学)

■ 一般演題②

9月5日(金) 15:30-17:00

601会議室

<座長>阪幸江(こころとからだのつながり相談室みらい)

(P-08) 家庭と学校の協働的関係の再構築についての一考察

山元彩美(龍谷大学大学院博士課程) 吉川悟(龍谷大学心理学部)

(P-09) 家庭内の複数の子どもが問題を抱える中で機能的な援助システムの形成を志向した一事例

相楽麻紀(自治体スクールソーシャルワーカー・カウンセリングルームIRIS)
大平厚(カウンセリングルームIRIS)

(P-13) スクールカウンセラーによる教員への働きかけに関する一考察—システム論の視点から

久保見篤(大阪市スクールカウンセラー)

■ 一般演題③

9月5日(金) 15:30-17:00

603会議室

<座長>阿部幸弘(こころのリカバリー総合支援センター)

(P-26) 希死念慮を抱く生徒の親子関係調整を行った一事例

西山達二(滋賀県スクールカウンセラー)

(P-12) 回復期の思春期神経性やせ症への介入

村松京香(浜松医科大学医学部附属病院／龍谷大学大学院心理学研究科)
吉川悟(龍谷大学心理学部)

(P-20) 他機関での専門的な支援・治療への拒否が改善した事例—患者の抱える困り感の扱いの有効性

寺田日向子(千春会病院) 吉川悟(龍谷大学心理学部)

9月6日(土) 一般演題

■ 一般演題④

9月6日(土) 9:00-10:30

602会議室

<座長>北島歩美(日本女子大学カウンセリングセンター)

(P-17)夫婦のコミュニケーションへの介入手段としての知能検査

竹下柊(龍谷大学短期大学部) 吉川悟(龍谷大学心理学部)

(P-25)カップルの治療的アセスメントで夫婦の相互作用を理解する

小倉菜穂子(治療的アセスメント・アジアパシフィックセンター／防衛医科大学校)

中村紀子(治療的アセスメント・アジアパシフィックセンター／中村心理療法研究室)

(P-14)不妊治療により葛藤的になった夫婦にカップルセラピーを実施した一事例 —不妊治療領域における家族療法の有用性について

石田真央(マインドウェル株式会社／龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻博士後期課程)

■ 一般演題⑤

9月6日(土) 9:00-10:30

603会議室

<座長>森野百合子(なります子どものこころケアセンター)

(P-03)応用行動分析の枠組みを母と共有したことで、母子関係が変化し子どもの粗暴行為がなくなった事例

藤枝周平・宋大光(宋こどものこころ醫院)

(P-05)知的障害の成人男性へのリフ্রেームと治療システムの活用で母子の相互作用が変化した事例

服部智花・宋大光(宋こどものこころ醫院)

(P-10)面接構造の変更に關する一考察—母子合同面接を導入して改善した不登校生徒の事例から

赤津玲子(龍谷大学心理学部)

■ 一般演題⑥

9月6日(土) 9:00-10:00

604会議室

<座長>岡本吉生(日本女子大学)

(P-15)「昨日の夜ご飯はなんですか？」と支援者に問い続ける難病患者への支援

水野愛梨(千春会病院／龍谷大学大学院文学研究科) 吉川悟(龍谷大学心理学部)

(P-19)心配事を訴え続ける母親との面接過程

廣橋諒一・吉川悟(龍谷大学心理学部)

Ⅰ 一般演題⑦

9月6日(土) 10:40-12:10

602会議室

<座長> 上別府圭子 (国際医療福祉大学大学院)

(P-11) 不登校経験者のレジリアンス—大学へ進学できた人の自分史と面接から

杉原俊二 (高知県立大学社会福祉学部)

(P-23) 家族のヒストリーを来談者と共有することの効用

—発達障害を治したいと訴える女性の事例

田上貢 (かえでクリニック) 吉川悟 (龍谷大学心理学部)

(P-24) 実家との関係に悩む40代女性との面接過程

—コミュニケーションの連鎖に着目して

今峰大樹 (まつあきこころのクリニック/龍谷大学文学研究科)

松原明弘 (まつあきこころのクリニック)

吉川悟 (龍谷大学心理学部)

Ⅰ 一般演題⑧

9月6日(土) 10:40-12:10

603会議室

<座長> 植村太郎 (神戸労災病院精神科)

(P-06) 学校システムによる母子の不安への支援により多動傾向が改善した事例

近藤弘果 (龍谷大学大学院博士課程)

(P-16) 「外在化が嫌い」なクライアントとのナラティブ・セラピー

—“外在化する会話”の展開に関する一考察

木場律志 (甲南女子大学)

(P-02) 断薬がある状況における家族同席面接の場面設定とリフレクティングの活用

—ストレングスから考える支援のあり方

田中良人 (多機能型事業所こころカ・プロダクション)

阿部幸弘 (こころのリカバリー総合支援センター)

Ⅰ 一般演題⑨

9月6日(土) 13:30-15:00

603会議室

<座長> 中垣真通 (子どもの虹情報研修センター)

(P-22) 社会福祉士養成におけるパラレルチャート活用の試み

長沼葉月 (東京都立大学)

(P-04) 職場組織システムでのソーシャルワークスーパービジョンへの多世代家族療法モデルの活用例

木戸宜子 (日本社会事業大学) 福山和女 (ルーテル学院大学)

(P-18) 児童相談所におけるシステムズ・コンサルテーション実践への試み

三木馨 (西日本こども研修センターあかし) 吉川悟 (龍谷大学心理学部)

9月5日（金）6日（土） 事例検討

① （K-05）回復期リハビリテーション病院リエゾンにおける退院支援の一例

日時：9月5日（金）13：00－14：00

604会議室

＜発表者＞森未緒（医療法人健育会湘南慶育病院）

堀込俊郎（慶応義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座）

＜座 長＞渡辺俊之（渡辺医院/高崎西口精神療法研修室）

② （K-04）読み書きの困難を持つ児童に、チーム学校が成し得たことは何か

日時：9月5日（金）14：10－15：10

604会議室

＜発表者＞迎美保（国立大学附属小学校スクールカウンセラー）

佐藤牧子（国立大学附属小学校養護教諭）

＜座 長＞赤津玲子（龍谷大学心理学部）

③ （K-06）本人が来談困難な状況の発達相談における家族支援事例

日時：9月5日（金）17：10－18：10

604会議室

＜発表者＞志田望（龍谷大学心理学部）

＜座 長＞鈴木美砂子（岐阜県総合医療センター）

④ （K-02）痛みと家族の悩みを抱え来談した事例

日時：9月6日（土）10：10－11：10

604会議室

＜発表者＞岩田尚大（広島大学病院） 村上雅彦（広島ファミリールーム）

＜座 長＞児島達美（KPCL）

⑤ （K-01）家族面接における対話を促す非言語的関わり

—治療者の姿勢と呼吸の調整を通して—

日時：9月6日（土）15：15－16：15

603会議室

＜発表者＞尾形広行（獨協医科大学埼玉医療センター）

＜座 長＞吉川悟（龍谷大学心理学部）

⑥ （K-03）相互作用の変化に向けてHere and Nowでの応対を行った一事例

日時：9月6日（土）16：30－17：30

603会議室

＜発表者＞大平厚（カウンセリングルームIRIS） 吉川悟（龍谷大学心理学部）

＜座 長＞村上雅彦（広島ファミリールーム）

9月5日(金) 6日(土) スーパーヴィジョン・セッション

① (S-01)すれちがう母と子への個別アプローチ

日時：9月5日(金)15:30-17:00

604会議室

＜発表者＞高橋候輔（公立学校スクールカウンセラー）

＜スーパーヴァイザー＞田中究（関内カウンセリングオフィス）

② (S-02)複数のシステムに変化が生じる中で生徒に対応した一事例

日時：9月6日(土)13:30-15:00

604会議室

＜発表者＞渡邊整（福島県スクールカウンセラー/カウンセリングルームIRIS）

大平厚（カウンセリングルームIRIS）

＜スーパーヴァイザー＞金丸慣美（広島ファミリールーム）

③ (S-03)発達障害の家族への関わり—家族システムと病院システムの間で

日時：9月6日(土)15:45-17:15

604会議室

＜発表者＞渡邊優江（群馬病院）

＜スーパーヴァイザー＞中村伸一（中村心理療法研究所室）

9月5日(金)6日(土) 自主シンポジウム

1 (V-05)公立中学校と児童精神科医師との15年間の協働関係

日時：9月5日(金)13:00-15:00

601会議室

小笹祥子（公立中学校） 清田晃生（大分療育センター） 川窪公夫（私立保育園） 神谷俊介（北里大学付属病院） 谷田征子（帝京平成大学大学院） 高橋候輔（公立学校スクールカウンセラー） 布施裕美子（公立小学校）

2 (V-04)スーパーヴィジョンのあり方・話し方を考える — あるスーパーヴィジョン・グループの模索のプロセス

日時：9月5日(金)13:00-15:00

602会議室

平栗富美子（Office Becoming） 小池武（家庭裁判所） 長谷川暁子（(株)東京カウンセリングセンター） 増井紀子（私立学校SC） 横山勝（公立学校SC） 川口友美子（公立学校SC） 相澤秀一（キャリアデザイン・アカデミー） 児島達美（KPCL）

3 (V-10)精神科診断名を共有することにどれだけの意味があるのか—トラウマインフォームドケア・PTMF・オープンダイアログ・心理教育などの視点からの問い

日時：9月5日(金)15:30-17:30

602会議室

伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ） 後藤雅博（こころのクリニック ウィズ） 福井里江（東京学芸大学） 遊佐安一郎（長谷川メンタルヘルス研究所）

4 (V-02)ラップアラウンドをととした現場の対応と気づき —家族支援と当事者主体

日時：9月6日(土)10:10-12:10

第1集会室(4F)

久保樹里(日本福祉大学・一般社団法人ALLOUND) 菅野道英(そだちと臨床研究会) 北谷多樹子(一般社団法人アンコーラ) 三木馨(西日本こども研修センターあかし) 吉村拓美(京都府福知山児童相談所)

5 (V-03)TAT(主題統覚テスト)を家族アセスメントに使う

日時：9月6日(土)10:10-12:10

601会議室

渡部千世子(鈴鹿医療科学大学) 後藤千恵(鈴鹿医療科学大学医療科学研究科修士課程) 中井洋子(鈴鹿医療科学大学医療科学研究科修士課程) 大矢愛里(鈴鹿医療科学大学医療科学研究科修士課程) 村瀬早苗(東海学園高等学校スクールカウンセラー)

6 (V-09)メディカルファミリーセラピー実践入門 —医療者と家族療法家をつなぐ支援とは

日時：9月6日(土)13:30-15:30

第1集会室(4F)

宮本侑達(ひまわりクリニック/名古屋大学医学系研究科発達・加齢医学講座総合診療医学分野) 若林英樹(三重大学医学部附属病院総合診療科/名張地域医療学講座) 山田宇以(聖路加国際病院心療内科) 佐藤律子(神奈川県立がんセンター) 鈴木美沙子(岐阜県総合医療センター) 永嶋有希子(弓削メディカルクリニック/滋賀家庭医療学センター)

7 (V-11)今考える、LGBTQと家族のカタチ(その2) —LGBTQと子育て・実際どうしているの?

日時：9月6日(土)13:30-15:30

601会議室

林直樹(東京武蔵野病院/しらかば診療所) 金城理枝(弘前大学大学院/横浜市青少年相談センター) 田村毅(高山村こころの診療所)

8 (V-07)学校と医療機関や心理相談室の連携を推進するためのコツ —紹介する側と紹介を受ける側の立場から

日時：9月6日(土)13:30-15:30

602会議室

岩崎和子(北海道教育大学) 村上雅彦(広島ファミリールーム) 上別府圭子(国際医療福祉大学大学院) 長谷川京子(南長野医療センター篠ノ井総合病院) 渡辺俊之(渡辺医院/高崎西口精神療法研修室)

9 (V-01)クリニックにおける受付スタッフの重要性 —医療機関全体の治療力向上を目指して

日時：9月6日(土)15:45-17:45

第1集会室(4F)

宋大光(宋こどものこころ醫院) 橋本穂乃香(宋こどものこころ醫院) 清水良輔(皮ふ科しみずクリニック) 清水貴子(皮ふ科しみずクリニック) 田中究(関内カウンセリングオフィス)

10 (V-06)グループスーパーヴィジョンにおける均一性と多様性 ―内省的効果と協働的効果

日時：9月6日(土)15:45-17:45

601会議室

渡辺俊之（渡辺医院/高崎西口精神療法研修室）石田匡宏（福岡大学医学部精神医学教室）神谷俊介（北里大学付属病院）星野俊弥（北里大学付属病院）菅野陽子（浦和大学子どもコミュニティセンター／子どもと家族支援研究センター）筒井奈佳子（新潟リハビリテーション病院臨床心理室）清水秀美（民生委員児童委員／全国心臓病の子どもを守る会）四十物貴子（東京都福祉保健財団電話相談室）西島美保（元養護教諭／看護師）

11 (V-08)学校職員それぞれの本音をぶつけ合おう ―ずれの明確化から組織連携を考える

日時：9月6日(土)15:45-17:45

602会議室

宮戸和哉（武蔵野市立境南小学校）神田哲男（公立中学校）宮本茜（公立中学校）川井利枝（公立小学校）中井美伽（公立小学校）松原英司（公立小学校）宮島大輔（公立小学校）七五三野暁美（地域療育センターあおば）田村毅（高山村こころの診療所）



9月7日(日) 10:00~16:00 ワークショップ

WS① 子ども・若者に身近な依存症と、

その家族へのアプローチ薬物依存症のACE当事者の立場から

【講師】風間暁（特定非営利活動法人ASK）

601会議室

WS② 質的研究入門—理論的背景とデータ分析の基礎

【講師】能智正博（東京大学大学院教育学研究科）

第1集会室（4F）

WS③ RC：認証と可能性の探究から実践を振り返るナラティブ・スーパービジョン

【講師】国重浩一（ナラティブ実践協働研究センター）

第4集会室（4F）

WS④ 家族療法入門～実践を始める上で大事なこと～

【講師】村上雅彦（広島ファミリールーム） 岩田尚大（広島大学病院）

602会議室

WS⑤ ロールプレイングによる家族・夫婦同席面接の演習

【講師】中村伸一（中村心理療法研究室） 北島歩美（日本女子大学カウンセリングセンター）
岩井昌也（錦糸町クボタクリニック） 宮崎愛（富士カウンセリングオフィス） 第3集会室（4F）

WS⑥ トラウマインフォームドな家族支援に向けて

【講師】遊佐安一郎（長谷川メンタルヘルス研究所） 西田泰子（常葉大学短期大学部）
中垣真通（子どもの虹情報研修センター） 唐津尚子（北浜心理臨床オフィス）

604会議室

WS⑦ 家族・関係者からの支援を主眼とした発達障がいの当事者への支援

—システムズアプローチの視点からの対応

【講師】吉川悟・志田望（龍谷大学心理学部）

603会議室

一般社団法人日本家族療法学会 第42回大宮大会実行委員会

大会長	中野真也（国際医療福祉大学／心理技術研究会）
実行委員長	辻本聡（国際医療福祉大学成田病院／心理技術研究会）
実行委員	岩田尚大（広島大学病院）
実行委員	浅野久木（医療法人成精会刈谷病院）
実行委員	大平厚（カウンセリングルームIRIS）
実行委員	鈴木千晶（東京メンタルヘルス株式会社）
実行委員	寺崎伸一（SOMPOケア株式会社）
協力委員	尾形広行（獨協医科大学埼玉医療センター）
協力委員	川口友美子（公立学校スクールカウンセラー）
協力委員	柴田礼子（法政大学小金井学生相談室）
協力委員	鳥山晃平（みくりやこどもココカラクリニック）
協力委員	渡邊整（福島県スクールカウンセラー/ カウンセリングルームIRIS）
デザイン協力	松本美織（国際医療福祉大学）
キャラクターデザイン協力	川井若菜（国際医療福祉大学）
レイアウト協力	丸山詠子（国際医療福祉大学大学院）

◆ 大会事務局 ◆

〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26
（国際医療福祉大学赤坂キャンパス内）
メール：omiya2025@jaft.org

◆◆ 協賛広告掲載企業様・団体様一覧 (順不同) ◆◆

株式会社 誠信書房
株式会社 北大路書房
株式会社 金剛出版
株式会社 医学書院
カウンセリングルームIRIS
心理技術研究会
渡辺医院/高崎西口精神療法研修室
(一社) 子どもと家族のQOL研究センター
中央法規出版株式会社



A5 判
3300 円

虐待を受けた子どものアセスメントとケア2

[地域生活と社会的養護を支える心理と福祉の協働]
鶴飼奈津子・服部隆志 編著

虐待を受けた子どもの保護の支援・対応を3段階に分けて解説。心理・福祉・教育など最前線で実務にあたる各専門職の知見が一冊に集約。支援のポイントと解説し、現場でのヒントを提示する。



A5 判
2640 円

トラウマをめぐる10の神話

[最新研究から解き明かす性格特性・レジリエンス・治療] ジョエル・パリス 著 黒田章史・市毛裕子 訳
トラウマ概念の漸動に警鐘を鳴らす著者が、膨大な研究結果からトラウマを巡る誤解を解き、生物心理社会モデルによる理解と治療を示す。患者のレジリエンスを育てる治療のための羅針盤となる一冊。



B5 判
4290 円

トラウマから自由になる

[自分を取り戻すための認知処理療法]
パトリシア・A・リーシック/シャノン・ウィルトジー・スターマン/ステファニー・T・ロサビオ 著
伊藤正哉・高岸百合子・片柳章子 他訳
トラウマ・PTSD への治療法としてエビデンスが認められた認知処理療法のワークブック。実施方法や実践におけるヒントに満ちた一冊。



A5 判
2420 円

心理カウンセリング熟練へのロードマップ

[脳科学と2つの統合モデルで越える7つの壁]
杉山 崇 著 クライエントの心の状態とカウンセラーの陥りやすい思い込みの差異を豊富な図版で示し、7つの課題でカウンセリングのプロセスが自然と身につくように構成。カウンセリングの技法マニュアルとは一線を画した、ひとりで学べる熟達へのバイブル。



B5 判
3520 円

セラピストのための子どもの発達ガイドブック

[0歳から12歳まで 年齢別の理解と心理的アプローチ] ディー・C・レイ 編著 小川裕美子・湯野貴子 監訳 子どものプレイセラピー研究会 訳
その子の問題とされている所が通常の成長過程内なのか、支援が必要なSOSかを見極め、適切に介入するために必要な年齢別基礎知識。



A5 判
3300 円

周産期医療と“こころ”の支援

[多様化する親子のはじまりを多職種で支える]
永田雅子 編著 不妊治療技術の進歩、出生前診断の複雑化、医療的ケア児の増加等、周産期医療の進歩とともに起こってきた“こころ”を巡る多様な課題に、医療従事者と心理職がどう向き合い、親子と家族をどう支えていくのかを、最前線から提起する。

誠信書房
SEISHIN SHOBO

Tel 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880

<https://www.seishinshobo.co.jp/>

@seishinshobo

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-6 (価格税込)



子ども・大人・家族の カウンセリングルームIRIS

Institute for Relationships & Interaction in Systems approach

☐ システムズアプローチ/家族療法に基づく包括的支援



カウンセリング
家族/関係者支援
※オンライン対応



組織/集団/
地域サポート



教育/研修
SV/コンサル
研修生制度
※オンライン応相談

[お問い合わせ]

福島県いわき市平字作町1丁目3-11 TKビル2階 202

MAIL: iris.moushikomi@gmail.com TEL: 0246-84-7124



北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

ナラティブ・セラピーの詩学^{〔仮題〕}

小森康永, 森岡正芳, M. スナイダー, 岸本寛史著
四六・約320頁・予価4180円 マイケル・ホワイトが引
用した「詩とは別の歴史に見合う言葉を見つけること
です」という言葉を手掛かりに、表層からは見えない
深層構造を確定しようとする「隠喩」としての診断に
対して、臨床における「換喩的」アプローチ、すなわ
ち表層にこだわるポスト構造のアプローチを探索。

はじめてのオープンダイアローグ

ー対話をもたらす回復の力ー 浅井伸彦, 白木孝二,
八巻秀編著 A5・208頁・定価3080円 どうすれば日
本の文化や制度、臨床に合わせてオープンダイアロー
グを活かせるのか? 「フィンランド等で行われてきた
実践や考え方」「国際トレーナーになるためのトレー
ニングで伝えられる考え方」「家族療法からの発展」と
いう観点からエッセンスを解説する。

サイコシスのためのオープンダイアローグ

ー対話・関係性・意味を重視する精神保健サービスの
組織化ー N. バットマンほか編著 石原孝二編訳
A5・368頁・定価4950円 強制治療や拘束などによる
伝統的精神医療を脱し、持続可能な精神保健サービ
スをどう組織化するか。オープンダイアローグ導入の意
義を確認し、既存のシステムへ導入するヒントを世界
各地の取り組みから学ぶ。

社会構成主義的地平 ナラティブ・セラピー入門

ーカウンセリングを実践するすべての人へー M. ベ
イン著 横山克貴, バーナード紫, 国重浩一訳 A5・
392頁・定価4180円 ジェンダーや障害、人種、「夫婦」
など社会の支配的な価値観から生じる苦悩に向き
合うか。社会文化的な視野を広げるナラティブ・セラ
ピーの全体像を構造的に解説。

ナラティブと情動

ー身体に根差した会話をもとめてー 小森康永, D.
デンボロウ, 岸本寛史, 安達映子, 森岡正芳著 四
六・304頁・定価3520円 ナラティブ・セラピーは神経
科学や「感情」・「身体」とどう関わっているのか?
人文・社会科学における「情動論の転回」がナラティ
ヴ実践に何をもたらすのかを探究。

はじめての家族療法

ークライアントとその関係者を支援するすべての人へ
ー 浅井伸彦編著 坂本真佐哉監修 A5・208頁・定
価3080円 家族療法の考え方や理論、背景、技法を概
括的に捉えられる入門書。カップルカウンセリングや
ジェノグラムの実践、さらには家族支援にも役立つ書。
オープンダイアローグなど、発展し続けるセラピーの
〈多様性〉を紹介。

精神科診断に代わるアプローチ PTMF

ー心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味のフレ
ームワークー M. ボイル, L. ジョンストン著 石原孝
二ほか訳 A5・256頁・定価4180円 社会的スティグ
マにより「異常」とされてしまう、人々の苦悩の「意味」
を汲み取りそのパターンを特定する包括的構造である
PTMFは、いかに精神科診断のオルタナティブとなり
うるのか。英国発のPTMF入門書。

公認心理師ハンドブック 心理支援 編

浅井伸彦, 杉山 崇編著 A5・328頁・定価2970円
法令で定められた4大業務に即して、心理職の現場で
役立つ理論と実践の基礎を解説する新シリーズ。本巻
では、精神力動的な心理療法、人間性心理学、認知行動
療法等、各心理支援の方法をバランスよく紹介。特定
の学派や流派に限らず、折衷的にも学派ごとにも学べ
る心理支援ガイド。

シリーズ 心理学と世帯 臨床心理学

太田信夫監修/高橋美保, 下山晴彦編集 定価2200円

マインドfulness指向 統合的心理療法

G. ジュヴェルツ他著/前田泰宏他訳 定価4620円

ナラティブ・セラピーのダイアログ

国重浩一, 横山克貴編著 定価3960円

公認心理師 標準テキスト 心理学的支援法

杉原保史, 福島哲夫, 東 斉彰編著 定価2970円

レベルアップしたい 実践者のための 事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド

鈴木伸一, 神村栄一著 定価2530円

ナラティブ・メディスンの原理と実践

R. シャロン他著/斎藤清二他訳 定価6600円

心理学ベーシック 第5巻 なるほど! 心理学面接法

三浦麻子監修/米山直樹, 佐藤 寛編著 定価2640円

愛着関係とメンタライジングによるトラウマ治療

J. G. アレン著/上地雄一郎, 神谷真由美訳 定価4180円

グラフィック・メディスン・マニフェスト

MK. サーウィック他著/小森康永他訳 定価4400円

マスターセラピストが語る 家族療法のターニングポイント

インタビューで辿る革新の軌跡

デイヴィッド・デンボロウ 編／吉川 悟、志田 望 監訳

家族療法は1960年代初頭の米国に登場し、家族関係への介入によって心理的問題を解決する新たな試みとして発展した。80年代以降、フェミニズムや社会構成主義の影響を受け、「制御から対話へ」への理論的転回が進む。本書はその変化を生き抜いたマスターセラピストたちへの貴重なインタビューを収録し、家族療法の倫理と可能性を再考する視座を与えてくれる。

A5判 並製 176頁 定価3,520円



トラウマからの回復と社会の修復

分断と再演を超える

野坂祐子 著

「本人の問題」と思われがちなトラウマの影響の可能性から理解していくアプローチをトラウマインフォームドケア (Trauma Informed Care: TIC) という。まさにエンパワメントモデルであり、トラウマをかかえる人だけでなく、支援者の力も引き出してくれるものである。多くの事例を示しながら、著者は、児童福祉の領域を中心とした長年の臨床活動を基にトラウマにアプローチするための基礎知識と臨床知見を懇切に述べる。

A5判 上製 230頁 定価3,850円



おとなの自閉スペクトラム症の心理カウンセリング

大島郁葉 著

二つの創作事例と治療技法+基礎知識の解説で学ぶ、おとなになるまで診断も支援もされなかったASD当事者のカウンセリングガイド。 四六判 256頁 定価3,300円

自閉スペクトラム症の私は、いかにこの世界を生きているか

横道 誠 著 精神疾患などの当事者が文学・芸術・娯楽作品を通して自身の体験世界を記述することで、健康な人にはない視点が立ち上がる。 四六判 256頁 定価2,750円

臨床犯罪心理学

門本 泉 著

虐待と加害、怒りと復讐、懲罰と教育、受刑とその後、査定と面接技法——加害と被害の交差点で加害者臨床を思考するフィールドノート。 四六判 288頁 定価3,960円

JASPER実践マニュアル

C・カサリ他著／黒田美保、辻井正次監訳
遊びを通じて自閉スペクトラム症の子どもの社会性をはぐむアセスメントから実践、トラブルシューティングまで！

B 5判 448頁 定価4,620円

看護師物語

友田尋子 編著

看護師など他者と濃密な関係を築く仕事はほかにはない。現場で見た現実を綴った8つの物語。物語を通して今後の看護師のあり方を考える。 四六判 266頁 定価3,300円

解離の治療

K・スティール他著／新谷宏伸訳

「解離症」の基本原則を著実に明示し、数多くのケースを用いて解説することで、この疾患の治療を実践している臨床家に指針を提供する。 B 5判 500頁 定価13,200円

臨床心理学

Vol.25 No.4 特集 **トラウマインフォームドケア**

増刊第17号 **26ケースで学ぶ臨床心理アセスメント**

臨床心理学の今を伝える専門誌 B5判160頁／年6回(隔月奇数月) 発行／定価1,980円(増刊2,860円)／年間購読料14,740円(増刊含む、送料小社負担)

精神療法

Vol.51 No.4 特集 **リカバリーを目指す認知療法(CT-R)を実臨床で生かす**

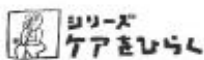
増刊第12号 **アディクション支援のフロントライン**

わが国唯一の総合的精神療法研究誌 B5判130頁／年6回(隔月偶数月) 発行／定価2,420円(増刊3,300円)／年間購読料17,820円(増刊含む、送料小社負担)

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
価格は税込(10%)表示です。



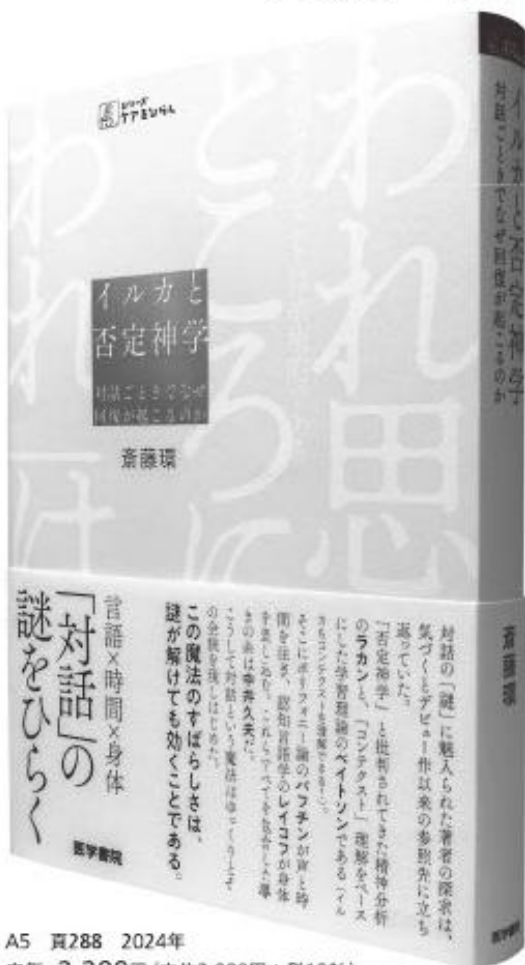
毎日出版文化賞
企画部門受賞

イルカと否定神学

対話ごときでなぜ回復が起こるのか

斎藤環

筑波大学名誉教授



「ゼロ」からはじめるオープンダイアログ！
——なぜ対話するだけで、これほどの変化が生ずるのだろうか。
——なぜこんな「ふつうのこと」で、回復が起きてしまうのだろうか。
ラカン、ベイトソン、バフチン、レイコフ、中井久夫……
著者の全キャリアを支えてきた思想を総動員して、
この哲学的疑問に真正面から答えた渾身の一冊。
こうして対話という魔法は
ゆっくりとその全貌を現しはじめた。
この魔法のすばらしさは、謎が解けても効くことである。

A5 頁288 2024年

定価：2,200円（本体2,000円＋税10%）

[ISBN978-4-260-05735-6]

詳細は
弊社ウェブサイトを
ご覧ください↓



- 目次
- ❶ 否定神学をサルベージする
対話ごときで
なぜ回復が起こるのか？
 - ❷ 「無意識」の協働作業
 - ❸ ジャック・ラカンの精神分析
 - ❹ こんなに「使える」否定神学
 - ❺ 構造からプロセスへ
 - ❻ 「プロセス」をめぐる逆説
 - ❼ 逆説・プロセス・システム
 - ❽ バフチンにおける
対話と「プロセス」
 - ❾ よみがえる身体
 - ❿ 対話における身体性
 - ⓫ 隠喩と身体
 - ⓬ 身体が思考する
 - ⓭ 逆説とコンテキスト
 - ⓮ 「他者」の逆説
 - ⓯ 心は「コンテキスト」にしかない
 - ⓰ ベイトソンの学習理論
 - ⓱ 対話と逆説
 - ⓲ コンテキストの転換に向けて



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp



心理技術研究会は、主にシステムズアプローチ・家族療法の習得と臨床実践力の向上を目的に活動を行っている研究会です。参加者は初心者から実践経験のある方まで幅広く、心理師、医師、福祉士など様々な現場の方が学んでいます。参加者それぞれの目的に応じた学習、研鑽ができるプログラムを提供しています。今年度は、以下のワークショップを予定しております。一緒に学んでいきましょう！

システムズアプローチ オンライン基礎コース

システムズアプローチや家族療法に関心のある方、これから学習を進めていきたい方を対象にした3回連続講座です。システムズアプローチを実践する上で基本となる「システム」「相互作用」「枠組み」の概念を学習し、全体像を掴むことを目的としています。システムズアプローチや家族療法を学んでいきたいけど何から手をつけていいかわからない方、ある程度知っているけど丁寧に復習したい方などのご参加をお待ちしています。

第1回：「システムという捉え方」 2025年9月23日（火祝）

第2回：「相互作用と枠組み」 2025年11月29日（土）

第3回：「セラピーとしてのシステムズアプローチ概観」 2026年2月11日（水祝）

※全てオンラインでの開催となります

古典で学ぶ家族療法 理論編

「家族療法の基礎理論：創始者と主要なアプローチ」

家族療法の古典的な書籍をもとに、家族療法の基礎的な理論について学ぶワークショップです。家族療法・システムズアプローチは、マスターセラピストやその優れた臨床技術が取り上げられることがありますが、そのベースにはシステム論などの認識論、サイバネティクス、コミュニケーション論などがあり、これらの理論を押さえることも必要です。今回は、リン・ホフマンの著書を取り上げ、講師からの解釈やまとめを提示しつつ、ディスカッションやQ&Aで理解を深めていく内容となります。古典を手に取り学ぶ機会として、多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：2025年10月26日（日）※オンラインでの開催となります

古典で学ぶ家族療法 実践編

上記ワークショップの実践編として、ヘイリーやミニューチンの事例を扱う予定です。

日時：2026年1月18日（日）※オンラインでの開催となります

心理技術研究会

世話人代表 中野真也

（第42回大宮大会大会長）

世話人 辻本聡、尾形広行、川口友美子

ワークショップのお問い合わせや過去の研修内容はこちらから

心理技術研究会



shinrigijyutukenkyukai115@yahoo.co.jp

渡辺医院
心療内科・精神科
高崎西口精神療法研修室

ネット予約
clinic5415@gmail.com

電話予約
027-386-5415



渡邊 亮

夫さりて火鉢をかこむ妻と子
母と子の小さき庭に秋桜



一般社団法人

子どもと家族のQOL研究センター

家族のQOL向上を目指して

2025年10月4日（土）19:00～21:00 オンライン開催

症例研究会「家族ケア」を詳細に考えます

2025年11月2日（日） オンライン開催

秋季シンポジウム「小児がん経験者の心身のリハビリテーション」

2026年4月 or 5月 ハイブリッド開催企画中

春季シンポジウム「子ども期の逆境体験の影響を和らげる工夫（仮題）」



QOL Research Center for Children and Family

2020年5月1日設立

代表理事 上別府圭子



子どもの支援



子どもの語りからわかる 精神疾患のある親をもつ子どもの支援

●田野中恭子＝著

●定価 2,750 円（税込） A5判・224 頁 2025 年 6 月発行

ISBN978-4-8243-0286-1

「親の精神疾患とともに生きる子ども」に焦点を当て、これまで語られなかった彼らの困難や支援方法を具体的に解説。著者の調査で得られた「子どもの語り」から子どもたちの実態を明らかにし、支援方法を示す。地域の支援者や教育関係者必携の一冊。

新刊

8050問題

本人・家族の心をひらく支援のポイント

●山根俊恵＝著

ISBN978-4-8243-0110-9

●定価 2,200 円（税込） ●A5判・204 頁 ●2024 年 9 月発行

8050問題を抱える家族の支援者にむけた支援ガイドブック。ひきこもりの理解や支援のポイントを事例を上げながら解説し、家族の発言から問題を紐解き、支援者としてのかかわり方、寄り添い方を解説する。

ジェノグラムを活用した相談面接入門 家族の歴史と物語を対話で紡ぐ

●早稲一男＝編著／寺本紀子、千葉晃央＝著

ISBN978-4-8058-8348-8

●定価 2,200 円（税込） ●A5判・212 頁 ●2021 年 7 月発行

アセスメントで必ず作成するジェノグラムを、相談面接場面で積極的に活用する方法を解説。児童分野、障がい分野、高齢分野における豊富な逐語事例をもとに、具体的な活かし方や効果的な質問の仕方を紹介。

子育てと介護のダブルケア

事例からひもとく連携・支援の実践

●渡邊浩文、森安みか、室津 瞳、植木美子、野嶋成美＝編著 ISBN978-4-8058-8826-1

●定価 2,420 円（税込） ●A5判・256 頁 ●2023 年 3 月発行

介護と育児を同時に担う「ダブルケア」。ダブルケアラーに気づき、話を聴き、関係機関につなぐといった支援のための手引書。多様なケースを字べる26事例を収載。制度や社会資源も整理し、当事者の参考にもなる一冊。

対人援助職のためのジェノグラム入門 家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方

●早稲一男＝編著

ISBN978-4-8058-5360-3

●定価 1,760 円（税込） ●A5判・146 頁 ●2016 年 4 月発行

家族関係を的確に把握するアセスメントツール「ジェノグラム」の入門書。表記の基本、読み解き方、家族理解の方法、相談・面接場面での活かし方を豊富な事例とともに解説する。



中央法規
Chuoohoki Publishing Co., Ltd.

〒110-0016 東京都台東区台東 3-29-1

TEL.03-6387-3196(代表)

<https://www.chuoohoki.co.jp/>



〈第42回大宮大会事務局〉

omiya2025@jaft.org

〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26
国際医療福祉大学赤坂キャンパス内

